

令和4年度学校自己評価システムシート (県立熊谷工業高等学校)

目指す学校像	育んだ心、深めた知識、学んだ技術を総合し、社会貢献できるスペシャリストの育成
--------	--

重点目標	1 確かな学力と専門的な知識・技術を身に付けたスペシャリストを育成する。 2 進路意識の向上と一人一人の希望を実現する進路指導を推進する。 3 心豊かでたくましく、規範意識をもたせ、規律ある態度を育成する。 4 地域との連携を深め、教育活動の情報を発信し、開かれた学校づくりと生徒募集を推進する。
------	---

※ 重点目標は3つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目(年度達成目標を意味する。)は複数設定可。
 ※ 番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

達成度	A	ほぼ達成(8割以上)
	B	概ね達成(6割以上)
	C	変化の兆し(4割以上)
	D	不十分(4割未満)

※学校関係者評価実施日とは、最終回の学校評価懇話会を開催し、学校自己評価を踏まえて評価を受けた日とする。

出席者	学校関係者	6名
	生徒	1名
	事務局(教職員)	11名

学 校 自 己 評 価							学 校 関 係 者 評 価	
年 度 目 標				年 度 評 価 (2月1日現在)			実 施 日 令和5年2月2日	
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	次年度への課題と改善策	学校関係者からの意見・要望・評価等
1	【現状】 ・学校満足度調査結果から92.9%の生徒が授業は分かり易いと感じている。生徒は各学科の専門的な学習に意欲的に取り組んでいる。 ・生徒は各種資格取得やコンテストの参加を通じて、専門分野の知識・技術を学ぶ意欲が高い。 ・クラス内における学習状況に幅があり、一人一人の生徒に合わせた授業展開が必要となっている。 【課題】 ・一人一人の生徒の学力を把握することに努め、学力向上に向けて取り組む必要がある。 ・授業後の補習や資格取得に向けた補習等を行い、生徒の学力を向上させる必要がある。 ・研究授業等を通じ授業改善を行い、学力や技術の向上を図る必要がある。	・学習内容の定着及び更なる学力の向上 ・専門的な知識の定着及び確かな技術の習得	①学校満足度調査の分析結果をもとに、授業改善を行い、生徒の学習意欲の向上に取り組む。 ②教科・科目ごとに授業後の補習等を更に積極的に行い、基礎学力を定着させ、成績優良者数の増加、成績不振科目数の減少を目指す。 ③学力診断テストを実施し、分析結果を学習指導に生かす。	①学校満足度調査の授業に関する項目において、肯定的な回答が90%以上を維持しているか。研究授業を実施し、授業力向上に取り組んだか。 ②前年度と比較した成績優良者数増加、成績不振科目数の減少となったか。 ③学力診断テストの分析結果を学習指導に活かしたか。	・学校満足度調査(生徒)19項目中、14項目で90%以上の満足度を維持することができた。 ①「授業は分かりやすい」93.3%(0.4%増)。研究授業は3名が実施した。 ②1,2学期の成績優良者の評価の平均は8.83(0.1ポイント増)。1,2学期の不振科目数は0.6%減。 ③国語、数学、英語の学力診断テストを実施し、一人一人の学習状況を把握した。授業毎に小テストを行う教員も少なくない。	A	課題：授業改善、成績優良者数の増加、成績不振者数の減少が課題である。 改善：生徒の学習状況に目を向けた授業展開や補習の実施、ICT活用の増進、わかりやすい授業の工夫、コロナ禍で縮小していた教員相互の授業見学の実施(復活)を図る。	・ほとんどの項目で満足度が90%以上であることは、とても素晴らしい。 ・教員の授業力の高さや分かりやすい授業実践をしていることがわかる。今後も生徒のために授業力の向上を目指していただきたい。 ・学力向上と授業時間の確保は、関係性が深い。学校行事の見直し、期末考査後の授業実施等、授業時間の確保を生徒のために取り組んでもらいたい。
2	【現状】 9割以上の生徒が、本校の進路指導に満足している。(学校満足度調査結果から、95.4%の生徒が、「本校は自分の進路を実現してくれる」と回答) 【課題】 ・企業のニーズを把握し、進路指導内容の工夫や改善を行う。また、進学を希望する一人一人の生徒に応じた進学指導を行う。 ・生徒の進路実現の満足度を向上させる。 ・就職内定率100%(9年連続)の維持。	・個に応じた進路指導の推進及び進路希望の実現	①進路指導内容の工夫、改善を行う。特に就職指導では、第1希望の就職内定率を向上させる。 ②感染症防止に配慮した、オンライン企業見学、大学見学等に対応する。 ③就職希望者には、企業のニーズを把握した進路指導を行い、大学進学希望者には入試形態に合わせた進路指導を実施する。	①9割以上の生徒が、進路指導に満足したか。(就職内定率が100%となったか等、前年度と比較した生徒の満足度の推移) ②感染症に対応した進路指導に対応できたか。 ③企業ニーズを把握した就職指導の実施、大学等の入試形態に合わせた進路指導の実施等について、前年度と比較した進学決定率が増加したか。	・就職内定率9年連続100%を達成し、進学希望者も全員が合格するなど、一人一人の希望に沿った進路を実現させることができた。 ①学校満足度調査項目「進路指導行事で意識が高まった」は91.3%(1.4%増)。「進路指導は自分の進路を実現してくれる」は96.2%(0.8%増)。今年度も年内に内定率100%を実現。就職試験において12科目で合格した生徒は92.9%(3.0%増)。求人数は3398件(22件増)。公務員は9名(2名増)(国土交通省1名、防衛装備庁1名、埼玉県庁1名、熊谷市役所3名、自衛隊2名、消防職1名)。 ②5月実施の3年生保護者進路説明会は感染防止対策を徹底し対面で実施できた。進路指導方針・計画を十分に伝えることができた。 ③進路ガイダンス等において企業から「就職を希望する高校生に今後必要な力」等の講話をいただき、より生徒の心に届く進路指導を実施した。就職、進学共にオンラインでの面接試験等に対応した。大学・短大進学者は37名16%(3.5%減)。	A	課題：学校満足度調査から、「進路行事での意識の向上」や「進路を実現してくれる学校である」の項目で、昨年度に続き微小だが肯定的な回答数の減少が課題。次年度10年連続就職率100%の維持も課題。 改善：さらなる進路行事内容や実施形態を工夫し、個別に対応する進路指導体制を継続する。	・情報提供や進路行事については、充実したものがなっている。 ・進路内定率が9年連続100%は素晴らしい。指導は大変であると思うが継続してもらいたい。 ・国土交通省、防衛装備庁への合格は、素晴らしい。さらに多くの生徒に積極的に公務員を目指してもらいたい。 ・「保護者対象の進学セミナー」を行い、保護者に進学に対する情報を与えてもらいたい。
3	【現状】 ・おおむね生徒は、規範意識をもって学校生活を送っており、安心安全な学校生活を送っている。 【課題】 ・継続した協調性の育成、規律ある態度の養成が必要である。 ・更に遅刻者数を減少させる必要がある。 ・令和4年度も、年度当初から自転車による交通事故が発生している。 ・継続した自動二輪等における未然の事故防止に向けた取組が必要である。	・時間や規律を守る態度の育成及び周囲を気遣う心の養成	①授業・学校行事・部活動等とおおむね、統一的な協調性の育成、規律ある態度を養成する指導を行う。 ②全教職員で継続的な挨拶指導・遅刻者への指導に取り組む。 ③生徒指導部を中心とした自転車安全運転講習会を実施する。また、生徒指導部を中心とした自動二輪等運転免許取得者への安全指導と講習会参加を徹底する。	①規範意識状況等について、前年度と比較し、学校満足度調査結果が増加したか。 ②前年度と比較した遅刻者数が減少したか。 ③早期に自転車安全運転講習会及び継続的な自転車点検が実施できたか。前年度と比較した自転車、自動二輪等の事故件数が減少したか。	・時間や規律を守る生徒の育成について概ね達成できた。 ①学校満足度調査項目「遅刻をしないように心がけている」では、95.6%の生徒が肯定的な回答(0.6%増)。「服装・頭髪等に関する校則を守って、身だしなみをきちんとしている」では97.5%(1.0%増)。 ②遅刻件数は、昨年度比26%減。 ③自転車安全運転講習会は、5月に実施(1年生)。自転車点検は、1,2学期で、各学期に1回実施。自転車、自動二輪等の事故件数については、自転車事故12件(2件増)、自動二輪車等の事故0件(2年連続)。3学年、生徒指導部等が中心となり生徒駐輪場の整備を行った。乱雑に置かれていた自転車が無くなり自転車点検も行いやすくなった。	B	課題：遅刻件数の減少、自転車事故件数12件(昨年度10件)を減少させることが継続した課題である。 改善：自転車事故は学期初めに多く発生している。遅刻と自転車事故は関連性がある。次年度も早い時期に、自転車安全運転講習会を実施すると共に家庭と連携して時間に余裕を持った登校になるように今後も継続して指導する。努力義務化となったヘルメット着用について指導を行う。	・学校満足度調査や学校自己評価の結果を見ても規範意識が高まっている。 ・自転車保険は、多くの生徒に加入してもらいたい。 ・登下校する生徒を見ていると、交通ルールをしっかりと守っている。 ・自転車による事故の件数の増加は心配される場所である。今後は自転車乗車時のヘルメットの着用が課題であり、着用するように指導してほしい。 ・原動機付自転車、自動二輪車等の事故が心配される。講習会への出席を確実に行うと共に、今後も指導を継続してもらいたい。
4	【現状】 ・感染症防止に配慮し、実施時期、内容等を改善しながら、学校説明会・学校見学会・体験入部(部活動見学)・出前授業等を行い、開かれた学校づくりに取り組んでいる。 【課題】 ・更に生徒募集に関する実施内容について、検討する必要がある。 ・学校の情報を積極的に発信するとともに、より一層の地域連携に取り組む必要がある。 ・コロナ禍ではあるが、小学生も対象とした学校紹介等を実施し、本校の教育活動の紹介等の実施が必要である。	・更なる地域連携及び様々な機会を利用した教育活動の情報発信及び地域連携と広報活動の推進	①生徒募集に関する実施内容の見直しを行う。 ②学校ホームページ、安心安全メール等を効果的に活用し、更なる情報発信を行う。 ③地域を対象とした学校紹介等を実施し、学校の教育活動を広く周知するとともに、学校への理解を深化させる。また、小学生も対象とした学校紹介等を実施する。	①生徒募集に関する実施内容の見直しを行ったか。また、各科の志願倍率が1倍以上になったか。 ②学校ホームページや安心安全メール等が、学校の情報発信ツールとして、有効的に活用できたか。 ③地域を対象とした学校の教育活動について紹介等ができたか。小学生も対象とした学校紹介等が実施できたか。	・学校説明会はコロナ禍もあり昨年同様の形態、回数で実施したが、将来に繋がる生徒募集にも目を向け取り組んだ。学校ホームページはトップページから説明会の申し込みができるように改善した。ホームページを活用して教育活動の情報発信と広報活動等についてはほぼ達成できた。 ①全学科での志願倍率は1月現在で0.97倍(昨年度1.00倍)であった。 ②安心安全メールでは、自転車事故に関して事故状況を可能な範囲で詳しく記載し、事故防止に向けて取り組んだ。生徒の学習成果(表彰)等2回(学期に1回)実施した。 ③熊谷市内の小・中学校初任者教諭54名や地域住民限定の学校見学会を実施した。熊谷市内の小学生に対して募集した「クマコー体験」(3年ぶり19組44名)、2校の小学校5年生に学校紹介を実施し(昨年度1校)広く地域に学校紹介が行えた。	A	課題：次年度も志願倍率の向上が課題である。工業高校の教育活動について小・中学校の保護者だけでなく、教員にもさらに理解を深めていただくことも課題である。 改善：更に学校説明会等の実施時期、内容の工夫等を検討する。また継続的に小学校、中学校と連携した学校見学会の実施し、将来的な本校への志願者の増加に繋げる。	・小学生を対象としたクマコー体験や学校紹介を実施することで、熊谷工業高校について広く理解されたと考えられる。 ・中学校との出前授業においても開かれた学校づくりを推進している。 ・学校説明会等では生徒による説明をより多く行っても良いのではないか。 ・電気科新聞の配布・回覧の取組は素晴らしい。 ・安心・安全メールの対応が、迅速で良い。今後も迅速に行ってもらいたい。 ・入学者選抜における志願者の倍率確保は、大変であると思うが今後も全力で取り組んでもらいたい。